



化学でもっといいこと

Something Better with Chemicals

ダイソー株式会社

2010年3月期
第2四半期決算説明会

(東証・大証第一部:4046)

2009年12月2日

DAISO



2010年3月期上半期の状況

2010年3月期第2四半期業績

今後の戦略と2010年3月期見通し

トピックスと研究開発



2010年3月期上半期の状況

2010年3月期上半期を終えて

需要急減に対応した収益力強化対策を実施

対応策1 徹底したコスト削減を実施（上半期11億円）

対応策2 医薬品原薬・中間体事業の統合
（子会社サンヨーファインへ）

対応策3 アジアを中心とした機能化学品の拡販

対応策4 製造プロセスの改善

省エネ型電解槽の採用、塩素系誘導体の多品目化

期初計画を上回る業績を達成



2010年3月期第2四半期業績

2010年3月期第2四半期業績

売上高は344億円(前期比18.3%減)

営業利益は9億円(前期比59.6%減)

(単位:百万円)	09/3 2Q	売上比	10/3 2Q	売上比	前期比		10/3 計画
	A		B		B - A	増減率	
売上高	42,124	-	34,427	-	7,697	18.3%	70,000
営業利益	2,229	5.3%	901	2.6%	1,328	59.6%	1,900
経常利益	2,269	5.4%	979	2.8%	1,290	56.9%	2,000
当期純利益	1,078	2.6%	437	1.3%	641	59.5%	900

セグメント別売上高

第1Qから景気回復基調になるも販売数量減で前期比18%減少

(単位:百万円)	09/3 2Q	構成比	10/3 2Q	構成比	増減額	増減率
基礎化学品	21,798	51.8%	16,688	48.5%	5,110	23.4%
機能化学品	14,209	33.7%	11,913	34.6%	2,296	16.2%
住宅設備ほか	6,116	14.5%	5,825	16.9%	291	4.8%
合計	42,124	100.0%	34,427	100.0%	7,697	18.3%

売上高変動要因(77億円 前年同期比 18.3%)

基礎化学品： クロール・アルカリは価格維持するも需要減をカバーできず

機能化学品： 医薬品原薬・中間体健闘も、自動車・電機業界等の需要低迷

住宅設備ほか： 生活関連商品は好調であったが、建築不況により減少

基礎化学品

51億円

エピクロルヒドリン

22

クロール・アルカリ

9

塗料原料ほか

20

住宅設備ほか

3億円

住宅関連製品ほか

3

機能化学品

23億円

医薬品原薬・中間体

+2

エピクロルヒドリンゴム

8

カブラス

4

ダップ樹脂

3

金属電極

3

アリルエーテル

2

その他

5

セグメント別営業利益

各セグメントとも需要急減による販売数量減少の影響大

(単位:百万円)	09/3 2Q	10/3 2Q	増減額	増減率
基礎化学品	1,735	1,117	618	35.6%
機能化学品	745	105	640	85.9%
住宅設備ほか	182	88	94	51.6%
小計	2,663	1,312	1,351	50.7%
配賦不能 営業費用	434	410	+ 24	-
合計	2,229	901	1,328	59.6%



今後の戦略と2010年3月期見通し

2010年3月期下半期の事業環境と施策



2010年3月期業績達成へ向けた施策

1. 徹底したコスト削減を継続(下期13億円・年間24億円)
 2. 医薬品原薬・中間体事業統合後のシナジー効果
 3. 東南アジアでの拡販体制の強化
 4. 製造プロセスの改善を継続
- +
5. 財務体質の一層の強化

2010年3月通期見通し

通期見通しは当初計画通り

(単位:百万円)	09/3		10/3		増減額	増減率
	実績	売上比	計画	売上比		
売上高	76,726	-	70,000	-	6,726	8.8%
営業利益	2,184	2.8%	1,900	2.7%	284	13.0%
経常利益	2,093	2.7%	2,000	2.8%	93	4.5%
当期純利益	745	0.9%	900	1.2%	+ 155	+ 20.8%

為替・ナフサの価格予想

1. 為替レート
(1)ドル 90円/\$ (2)ユーロ 130円/EUR
2. 国産ナフサ価格 43,000円/kl

2010年3月期下半期セグメント別売上高見通し

機能化学品：主力製品が回復基調へ

基礎化学品：需給緩和の影響受け数量減少で売上微減

(単位:百万円)	10/3		10/3		下期 - 上期	通期計画
	上半期	構成比	下半期	構成比		
基礎化学品	16,688	48.5%	16,312	45.9%	376	33,000
機能化学品	11,913	34.6%	14,087	39.6%	+ 2,176	26,000
住宅設備 ほか	5,825	16.9%	5,173	14.5%	652	11,000
合計	34,427	100.0%	35,573	100.0%	+ 1,146	70,000

下半期製品別売上高見通し(上半期比 11億円増)

医薬品原薬・中間体が通期で大きく寄与する見通し

機能化学品： 医薬品原薬・中間体は事業統合のシナジー効果等により増加
主力製品も下半期はさらに回復、増収見通しへ

住宅設備ほか： 個人消費の低迷により減収へ

基礎化学品

4億円

クロール・アルカリ

2

塗料原料ほか

2

住宅設備ほか

7億円

機能化学品

+22億円

医薬品原薬・中間体

+6

エピクロルヒドリンゴム

+4

液体ノマトグラフィー用シリカゲル

+3

アリルエーテル

+2

感光性樹脂ほか

+7

2010年3月期通期セグメント別売上高見通し

通期で減収も機能化学品が前期比で増加へ

(単位:百万円)	09/3		10/3		増減額	増減率
	実績	構成比	計画	構成比		
基礎化学品	39,023	50.9%	33,000	47.1%	6,023	15.4%
機能化学品	25,343	33.0%	26,000	37.2%	+ 657	+ 2.6%
住宅設備 ほか	12,360	16.1%	11,000	15.7%	1,360	11.0%
合計	76,726	100.0%	70,000	100.0%	6,726	8.8%

2010年3月期通期セグメント別営業利益見通し

機能化学品が収益にも貢献する見込み

機能化学品：医薬品中間体事業統合効果と主力製品の販売増が寄与

基礎化学品：クロール・アルカリの販売数量ダウン等が影響

(単位:百万円)	09/3実績	10/3計画	増減額	増減率
基礎化学品	2,652	1,900	752	28.4%
機能化学品	111	700	+ 589	+ 530.6%
住宅設備ほか	345	100	245	71.0%
小計	3,109	2,700	409	13.2%
配賦不能 営業費用	925	800	+ 125	-
合計	2,184	1,900	284	13.0%

機能化学品の業績回復要因

第1Qから第2Qの回復の要因

エピクロルヒドリンゴムの販売増(特に新興国)
コスト削減効果

第3Q以降も回復を継続

サンヨーファインの統合効果
ダイソーケミカルの機能化学品取扱高が増加

(単位:百万円)	09/3 通期	10/3上期		10/3 上期	10/3 下期	10/3 通期
		1Q	2Q			
売上高	25,343	5,710	6,202	11,913	14,087	26,000
営業利益	111	175	280	105	595	700

設備投資額・研究開発投資の見通し

期初計画に変更なし

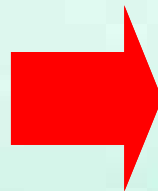
設備投資額: 期初計画どおり、維持投資は実施

研究開発費: 体制効率化で対象案件の増加へ

(単位: 百万円)	08/3	09/3	10/3計画	増減
設備投資額	5,908	4,614	2,200	52.3%
減価償却費	3,025	3,448	3,200	7.2%
研究開発費	1,666	1,737	1,800	+ 3.6%

キャッシュ・フロー計算書 有利子負債推移

フリー・キャッシュ・フローの改善
 長期借入金等の返済
 有利子負債の削減



財務体質を強化

(単位:百万円)

キャッシュ・フロー計算書	09/3 2Q	10/3 2Q	増減額
現金・現金同等物 期首残高	5,527	4,437	1,089
営業活動キャッシュ・フロー	379	2,301	1,921
投資活動キャッシュ・フロー	2,076	1,156	920
フリー・キャッシュ・フロー	1,696	1,145	2,841
財務活動キャッシュ・フロー	510	894	1,404
現金・現金同等物 期末残高	4,332	4,682	350

(単位:百万円)

有利子負債推移	ピーク時	09/3	10/3 2Q	10/3 計画
有利子負債	18,735	16,070	15,510	13,500

ゼロクーポン7,000百万円を含む

配当政策

安定配当を継続 : 10年3月期は前期同様年6円を計画

	08/3実績	09/3実績	10/3予想
通期	6円	6円	6円
中間	3円	3円	3円
期末	3円	3円	3円
配当性向	26.3%	88.8%	74.0%
純資産配当率	2.0%	2.0%	-



トピックスと研究開発

機能化学品事業強化戦略： ダイソーケミカルの事業拡大

ダイソーケミカル： ダイソーグループの化学専門商社

機能化学品(情報電子材料中心)の売上高が大幅増加

2003年3月期 売上高99億円

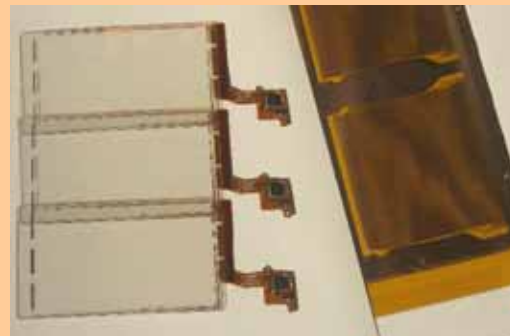
2009年3月期 売上高296億円



機能化学品

情報電子材料
FPD・タッチパネル
環境対応型洗浄システムの提案

感光材
感光性樹脂の販売
その他印刷材料及び周辺設備



液晶モニター用回路基板

携帯用タッチパネル

商社機能を活かして
顧客のニーズを
ダイソー本体に迅速に
フィードバック

機能化学品事業強化戦略： 医薬品原薬・中間体事業の強化

サンヨーファインとの事業統合によるシナジー効果

福井工場



松山工場



加古川事業所



尼崎事業所



1. 医薬中間体事業から医薬品原薬事業へ展開

➡ 化学業界から医薬業界への進出

➡ 国内トップクラスの生物化学技術を保有

2. 松山工場の大型設備を活用

➡ 旧サンヨーファインの設備では対応できなかった大型案件が進行中

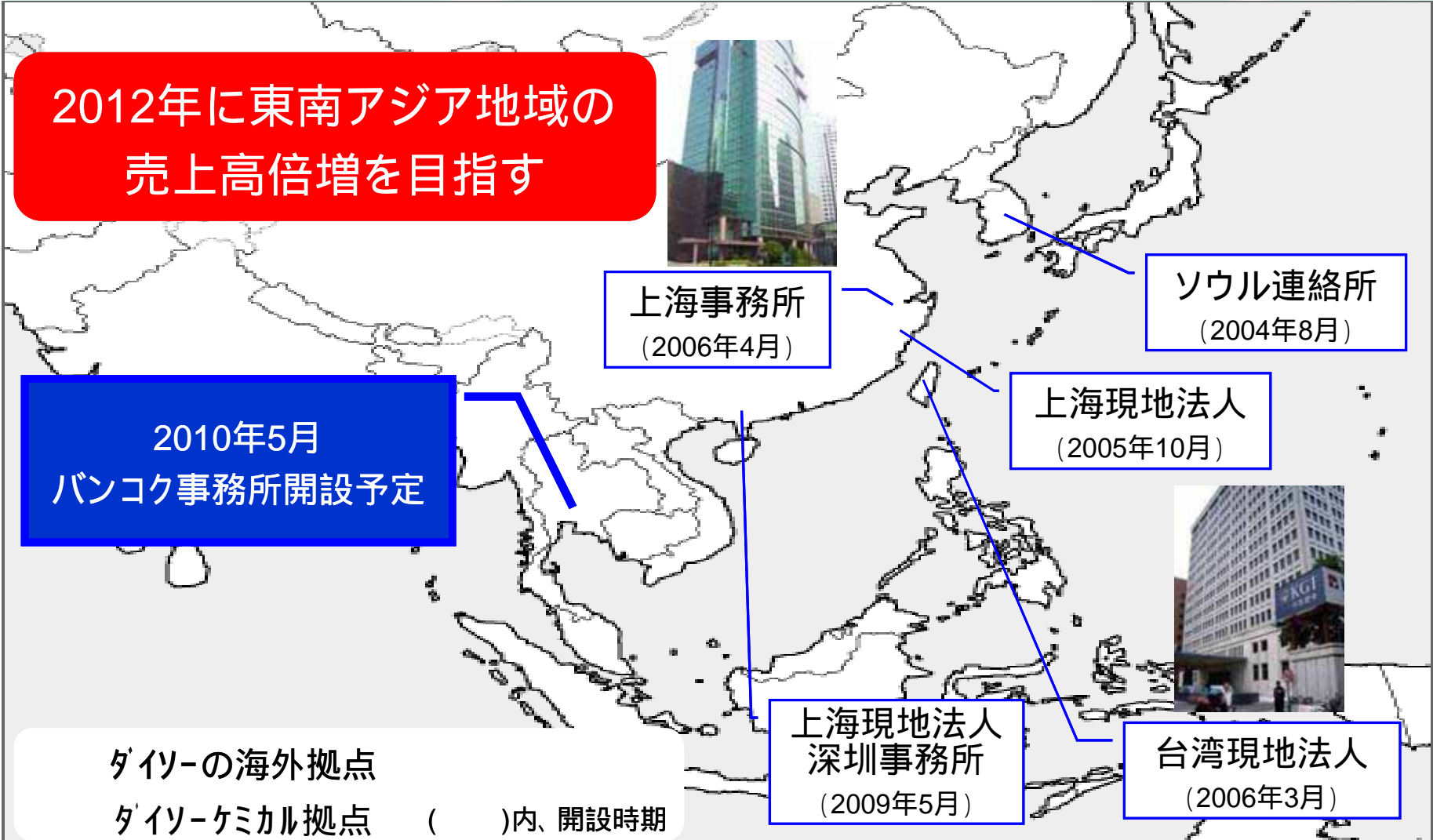
3. ダイソーの医薬中間体事業を子会社のサンヨーファインへ統合

➡ 研究陣の充実・迅速な対応が評価され、小口開発案件が増加

2012年には売上高倍増を目指す

機能化学品事業強化戦略： 東南アジア地区での拡販展開

東南アジアで機能化学品を中心とした販売力を強化

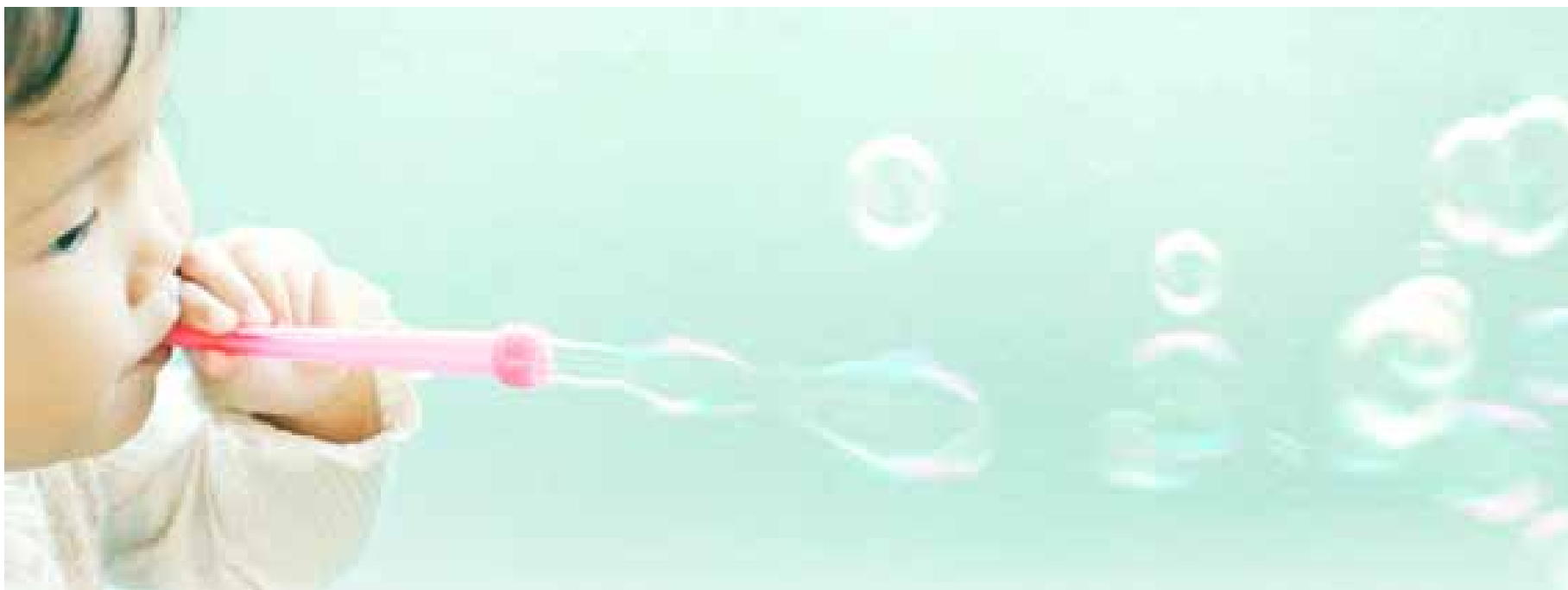


マーケットイン型の研究開発体制の整備

	既存技術 (滲みだし)	ライフサイエンス	電子・エネルギー
短期	<ul style="list-style-type: none"> ・塩素系化合物の拡充 ・二酸化塩素商品 	<ul style="list-style-type: none"> ・培養と有機合成を組み合わせた受託製造 ・化粧品 ・健康食品 	
中期	<ul style="list-style-type: none"> ・エポキシ樹脂改質 ・ダブ樹脂改質 ・精製用シリカゲル 	<ul style="list-style-type: none"> ・多糖類(化粧品) 	<電子材料用途> <ul style="list-style-type: none"> ・低塩素化樹脂材料 ・フレキシブル回路基板 ・EL素子材料 <Li二次電池> <ul style="list-style-type: none"> ・固体電解質
長期		<ul style="list-style-type: none"> ・新規医用高分子 ・止血剤 ・DDS 	



ダイソーケミカルと生活関連商品部門の協業体制強化



- 本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

2009年12月2日

DAISO